

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592100053		
法人名	日向農業協同組合		
事業所名	JA日向グループホームうなま		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷入下800番地		
自己評価作成日	令和4年10月29日	評価結果市町村受理日	令和5年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosvo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosvo_index=true</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和4年11月22日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームについては、山間の地区の静かな環境の中にあり、緑の木々や草花など自然豊かで穏やかな雰囲気のある場所にホームがあります。利用者の家族や調理の方、あるいは地域の方々に季節の食べ物や野菜・果物などの差し入れなどもあってアットホーム的な側面も見られます。利用者の出来る事を職員とともに行ったり、その人らしい生活が送れるように支援することをモットーに業務にあたり、各利用者の立場・思いを尊重しながら会話や笑顔を絶やさぬように努めています。色々な事は「職員みんなで話し合っ決めて」、利用者に対しては「本人の残存能力を活かしてゆっくり・安心を心がけて接する」ことを目標に業務にあたっています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は日常的に職員の意見や要望を聞くように心がけサービス向上に生かしている。又、コロナ禍、思うように人とのふれあいが困難な中、家族来所の際には短時間ではあるが10～15分程度、利用者の日ごとの活動の写真が貼ってある玄関での面会を行っている。毎月個人の情報を書いた写真付きの便りを送付し家族から安心と感謝を得ている。利用者は山あいにもまれた静かな環境の下、穏やかにゆっくりと過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを大切にしながら、当ホームの理念に沿って全員で業務にあたっている。	より良い日常生活を送ることが出来るように四項目の理念を掲げ廊下や玄関に掲示し職員同志共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域・家族の方から野菜や食べ物(お菓子)をいただいたり、時々面会に来られることはあるが、コロナ禍で交流は少ない。	短時間ではあるが近所からの差し入れ時の声掛けや利用者が外に出た時の見守りなどの協力を得ている。地域との繋がりは構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への認知症の人への理解や支援の方法が少ないので今後少しでも地域の方へ貢献していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近開催できていないので、早急に開催し定期的に行っていかなければならない。	管理者をはじめコロナ感染が相次ぎ開催が困難であった。今後は事業所の状況等、委員の方へ書類にて情報の提供をする予定をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターをはじめ連絡を取ることもあるが、当ホームの現状を伝えながら今以上の協力関係を築く必要はある。	コロナワクチン接種予約の情報など様々な情報や助言をもらっている。ホームも必要に応じて気軽に相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないことを念頭において、職員全員で日常の業務に取り組んでいる。	日中は玄関に施錠しておらず、又センサーはあるが作動していない。居室から外に出られる利用者もおり地域住民の見守りを受けながら自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の業務において虐待防止に努め、利用者の身体や言動に注意しながら見過ごすことのないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在これらの制度を利用している利用者はいないが、今後必要な知識でもあるので研修等で学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される際に契約内容や説明は行っており、同時にリスクのことも伝えていて、改定時などは書面等で理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人の表情や体調・思い等に留意して職員間で共有はしているが、それを外部に示す機会は少ないので、運営に反映できるように努めていかなければならない。	食べ物の好き嫌いや、本人の好きな事をさせて欲しい等と要望があり取り入れている。面会時や電話連絡の機会に意見や要望を聞きだしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から各職員の気づきや意見を取り入れながら日常の業務に取り入れるようにしている。	日常的に自由な意見や要望・提案は言い合える職場になっており、出された意見や要望は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状態や希望休・体調等になるべく配慮しながら働きやすい環境になるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員についてそのケアの方法や力量等に関してはある程度把握はしているものの、それをさらに向上できるような機会は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流する機会は少ないが、今後勉強会や研修会に参加するように努め、それを各職員に伝えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人・家族と面会・相談を通じてこれまでの本人・家族の生活状況や要望を聴きながらホームでの生活が安心して送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に当ホームを見学・相談をしていたき、家族の考えや要望を聴きながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時から本人や家族の思い・要望に応えられるように本人の日常生活の状況を見極めながら支援に努めている。また、本人の体調や生活に変化があった場合についても家族と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の好きな事や出来る事(洗濯物の干し方・たたみ方、テーブル・おぼん拭き、野菜の下ごしらえなど)を職員とともにいたり、利用者と会話したりしてお互いの関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや要望に耳を傾け、日々の生活における気づきを職員間で共有しながら、また家族の協力も得ながら本人を支えていく関係になるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であるが、感染予防をとりながら短時間等できる範囲で馴染みの方や家族や知人とは面会できるように努めている。	利用者が知人に会いたいとの要望があれば連絡を取り、職員が知人の家まで同行するなど馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に会話したり手伝いなどを行って利用者同士が関わり合って支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後もその後の本人の状況の把握に努め、また家族からの要望も踏まえながら対応し、その他必要な相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でそれぞれの利用者の思いや要望・相談を聴きながら、また家族の協力を得ながら本人本位に努めている。	一人ひとりの思いや意向について把握している。トイレに行きたいのか日向ぼっこをしたいのか行動や表情で汲み取り、本人の思いを大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と会話し家族や関係者(医療機関関係者やケアマネ等)からこれまでの生活状況の情報を聴きながらサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでの主たる日課はあるものの、一人ひとりの体調や残存能力に合わせて出来ることを行っていたきながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で個々の利用者の現状や課題・解決方法などを話し合っって計画を作成してケアに努めている。	介護記録帳に介護計画書と一緒に綴じてあり職員は日々の記録の際に閲覧できケアの状況確認に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの利用者の食量や排泄の状況、体調や言動等を記録したり申し送ったりして職員全員で把握し計画に活かすように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思いに沿って出来るだけそれぞれの利用者に応じたサービスや支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地区の行事が中止となる中、可能な限りの面会や地域住民の協力を得ながら利用者の安全で豊かな生活が出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はほとんど町内の医療機関であるが、既往歴等でそれ以外の医療機関を受診する場合は本人や家族に説明し、また医療機関と連携しながら必要な医療が受けられるように努めている。	かかりつけ医は殆どの利用者が協力医療機関となっており、職員が同行し受診を支援している 変化があれば家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの利用者の体調や状態の変化に応じて職場の看護師と相談しながら対応し、申し送り等で職員同士で情報を共有しながら必要な医療が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の状態や経過を家族に報告し病院からの情報を得ながら対応し、退院時には主治医をはじめ看護師等の関係者とも話し合いながら退院に向けての受け入れ体制が整うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化やその後の経過を踏まえて家族とも話し合い、医療関係者とも相談しながら家族の協力を得て支援に努めている。	基本的に看取りは行わない方針だが希望があればホームとしてできる限りの支援をする方針としている 重度化や終末期の在り方について明文化する事に取り組んでいる処である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制を作成し緊急時に備えているが、定期的な訓練や研修等は出来ていなく、実践力に不安があり早急に行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ここ最近避難訓練が出来ていないので、役場や関係者の協力を仰ぎながら定期的な災害等に対する訓練を実施して協力体制を築いていく必要がある。	通年であれば地域住民の協力を得て玄関先に設けているブザーを鳴らし避難訓練などを行うがコロナウイルス感染及びその対策に追われて各種の訓練を行っていない。	災害時特に夜間の場合、職員だけの対応では限界があるので、定期的な訓練を実施する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者本人の気持ちを大事にしてケアに努め、またプライバシーを配慮しながら対応に心がけている。	排泄介助時にはドアを細目に空けてさりげなく見守りをしたり、入浴拒否をする利用者には無理強いをせず時間を置いて声かけをするなど一人ひとりの人格を尊重して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者に合わせて声掛けしたり耳が遠くて聞こえづらい時などは身ぶりなどでコミュニケーションを図ったりして、なるべく本人が自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの主たる日課はあるが、なるべく一人ひとりの利用者の生活のリズムに合わせて日々送れるように自己決定を尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人で身だしなみができる方は本人でしていただき、それが困難な方は本人の意向を聴きながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をしたり、野菜の下ごしらえやお茶の葉詰め、テーブル・おぼん拭きなどを手伝って下さっている。	食べたい物のリクエストがある時は取り入れている。同じテーブルで食べている職員の弁当のお裾分けもあり楽しい食卓となっている。なお台風の影響で停電時のカップラーメンには舌鼓をうっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎食ごとに記録し食べにくい物や嚥下しづらい物は本人に確認しながら食事形態をその時に応じて変更したり、とるみをつけたりして支援している。水分摂取が少ない時などの声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き・うがいの準備や声掛け・見守りを行い、確認しながら口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレが困難な利用者には排泄パターンを考慮しながらトイレの声掛け・誘導を行い、個々の利用者に応じて支援している。	一人ひとりその人に応じた排泄パターンを把握し声掛け誘導しトイレで自立に向けた支援を行っている。居室に戻りポータブルを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量の声掛けや便秘に良い食べ物を食事に取り入れたり、排便状況に応じて処方薬を服用したりして体調を整えるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に休みを設けず毎日入浴を行うが、失禁された利用者には入浴の声掛けを行い入浴していただいたり、本人からの希望があればなるべく意向に沿うように対応している。	湯温の違い、ゆっくり入浴したい、入浴拒否時の対応など把握しており、個々にそって入浴が楽しいものとなるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの利用者の体調や状態に応じて居室で休んでいただいたり、本人の休みたい時に休息をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の診断や処方薬・薬の変更等については申し送り職員間において共有し、また確認し合っている。また、利用者の薬の飲み忘れに注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で好きな事をしていただき、ビデオや動画の鑑賞・塗り絵・日なたぼっこなどをしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ最近ではコロナ禍でなかなか外出ができていないが、利用者によっては馴染みの方への外出や近所の方へのふれあいは出来ている。ドライブ等は今後計画していきたい。	受診を兼ねてドライブしたり庭での外気浴を支援している。夏には庭園にカボチャを植え草取りや収穫をするなどして気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行かれる場合は、自己管理が出来る利用者であれば財布を持って職員とともに外出され買い物をされるが最近では買い物に行ける機会が少なくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の利用者からの希望や要望があれば本人と相談して相手側の都合を確認し状況を考慮しながら電話したり、自分で話していただくように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花や植物をホールに飾ったり、居室に利用者の子供さんやお孫さんの写真・利用者の集合写真などを貼ったりして、なるべく居心地良く過ごせるように支援している。	空気清浄機・加湿器の設置や日光の差し込む廊下にはソファを置き日向ぼっこが出来るように工夫をしている。窓からは季節の花や木々の色合いが見えるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で席の配置を考慮しながら会話していただいたり、一人でゆったりを過ごせるようにソファを置いたりして、なるべく好きな場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談・入所時に本人・家族と話し合いながら自宅で使い慣れた物や写真・物品等を持って来ていただき、日常の生活がなるべく送りやすいように支援している。	本好きな人は、沢山の本とスタンド・椅子を持ち込んでいる。又衣装ケースに取り出しやすいように名札を貼る等、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームとしてはあまり広くはないが、個々の利用者の能力や状態に応じて居室の配置を検討し、目配り・気配りに心がけ、センサー等も活用しながらなるべく安全に利用者が生活できるように支援している。		